令和　5 年度（2023 年度）
江別市大学連携調査研究事業報告

江別市の養護教諭の ICT を活用した研修環境の充実についての調査研究

2024.4

北翔大学大学教育文化学部教育学科
丸岡　里香（研究代表）
北翔大学北方圏学術情報センター研究員
阿部眞理子

報告内容

Ⅰ　研究目的

Ⅱ　研究方法
　１．調査方法
　２．調査期間
　３．倫理的配慮
　４．調査項目

Ⅲ　調査結果
　１．対象者の背景
　２．ICT の活用状況
　３．今後の ICT の活用について
　４．オンライン研修に関して
　５．新型コロナ感染拡大による ICT 活用の変化について
　６．研修参加に影響する環境について
　７．オンライン等の ICT を活用することに対する思い

Ⅳ　考察とまとめ

Ⅴ　今後の課題

Ⅵ　文献

Ⅰ　研究目的

近年若手教員の離職や休職が増加することの原因には、仕事に自信を持てないことや一人職の孤独感がある。その改善のためには専門職としてのスキルアップ研修やメンタルヘルス講習に参加し、そこで仲間を見つけ自身の職務に自信を持つことが必要であり、レジリエンスを高めることが専門職としての成長につながる。しかし、一人職であることや遠隔地であることが研修の参加を困難にしている現状があることから、本研究はICTを活用した支援を実施するために、養護教諭の日常のICTの活用状況についてアンケート調査を行い、現職の研修参加への課題を明らかにし、環境や方法の改善につなげることを目的とする。

Ⅱ　研究方法

１．調査方法：江別市の小学校、中学校、高等学校の養護教諭全員37名を対象に、WEBと調査用紙郵送にてアンケート調査を実施した。

２．調査期間：令和5年11月

３．倫理的配慮：研究の同意は、同意書に記名いただき調査用紙とは別に郵送していただいた。調査用紙は無記名で①紙面による回答の郵送②FormsによるWEB回答のどちらかを選択していただいた。本研究は北翔大学倫理委員会にて承認を受けた。
調査方法や調査項目は江別市養護教員会役員に不適切な表現が無いかを確認し、作成した。

４．調査の項目

１）年齢・勤務経験年数

２）現在の勤務校種・現在の所属学校規模

３）職務でインターネットを使用する環境について

４）オンライン会議への養護教諭の参加・企画・開催する経験について

５）オンライン研修会への参加・企画・開催する経験について

６）ICTに関する今後の期待について

７）新型コロナウイルス感染拡大以前（2019年まで）の対面による研修の参加について

８）研修参加への意欲と環境の影響について

９）ICTの活用の2019年以前と2020～2022年との変化について

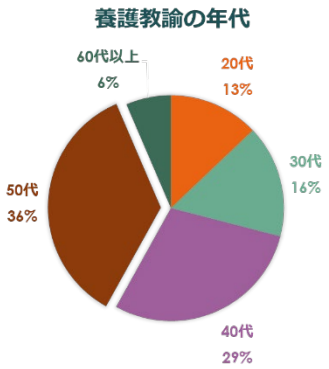
１０）オンラインによる研修への参加意欲について

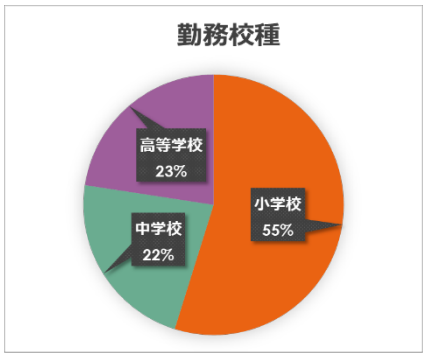
１１）今後の研修への希望について（自由記載）

Ⅲ　調査結果

1．対象者の背景

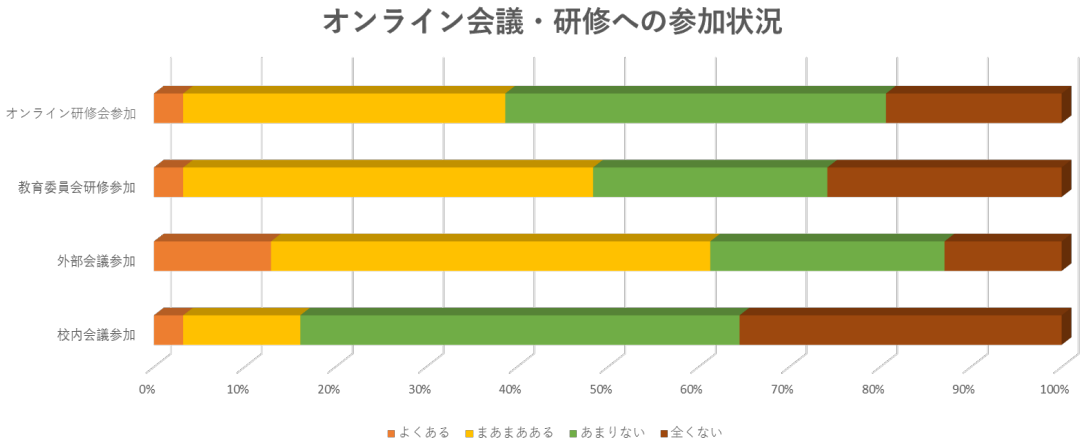
江別市内 37 名の養護教諭に質問紙と QR コードを郵送し、31 名の回答を得ることができ有効回答率８４％であった。年代は 50 代が最も多く、40 代と 50 代を合わせると 65％となっている世代構成であった。校種は小学校がもっとも多かった。

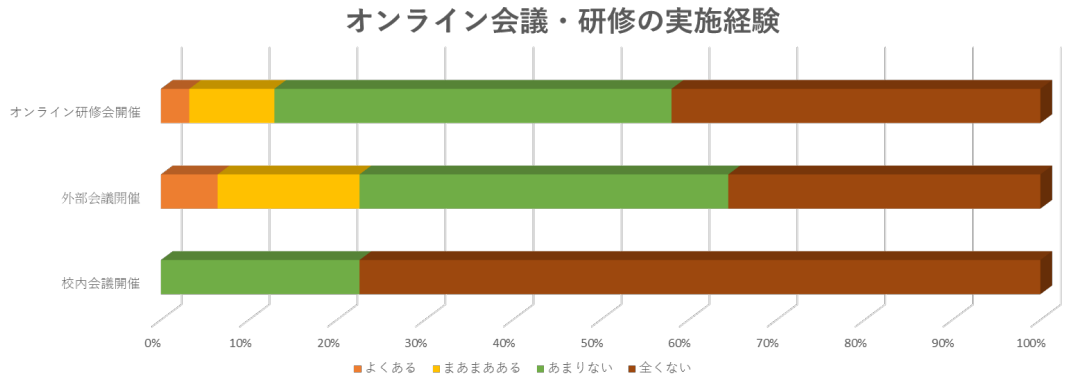




2．ICT の活用状況

オンライン会議や研修への参加と実施ではどちらも外部の会議への参加が「よくある」が最も多かったが校内では「あまりない」「全くない」が最も多く、コロナ禍で増えた ICT の活用ではあるが、施設内での使用はあまりないことがわかった。

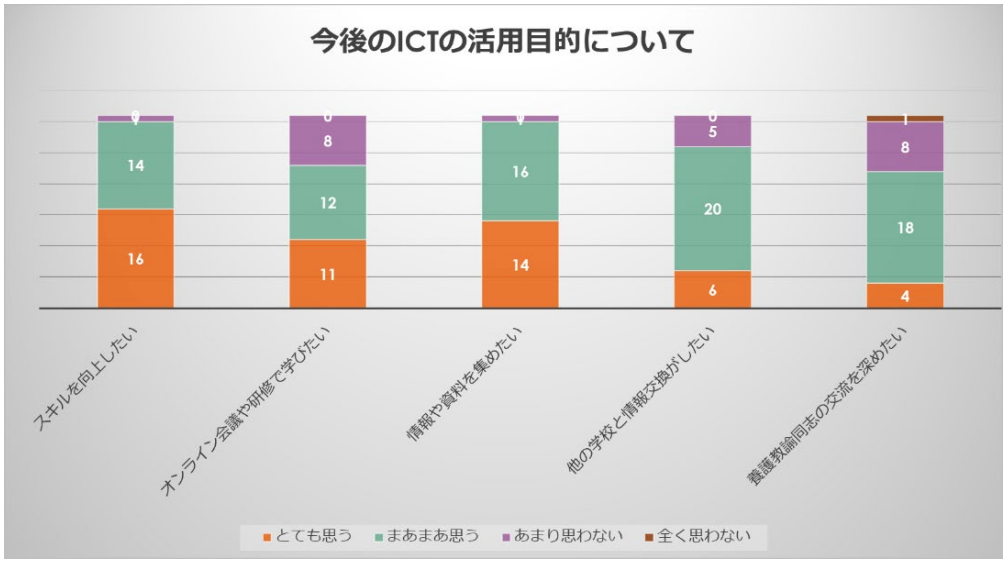




3．今後の ICT の活用について

1）今後の ICT の活用

今後 ICT をどのようなことを目的に活用することを希望するかを聞いたところ、スキルの向上や情報や資料を集める事には興味が高いが、他校との情報交換や交流には消極的であることがわかった。



4）ICT の活用に関する年代別目的

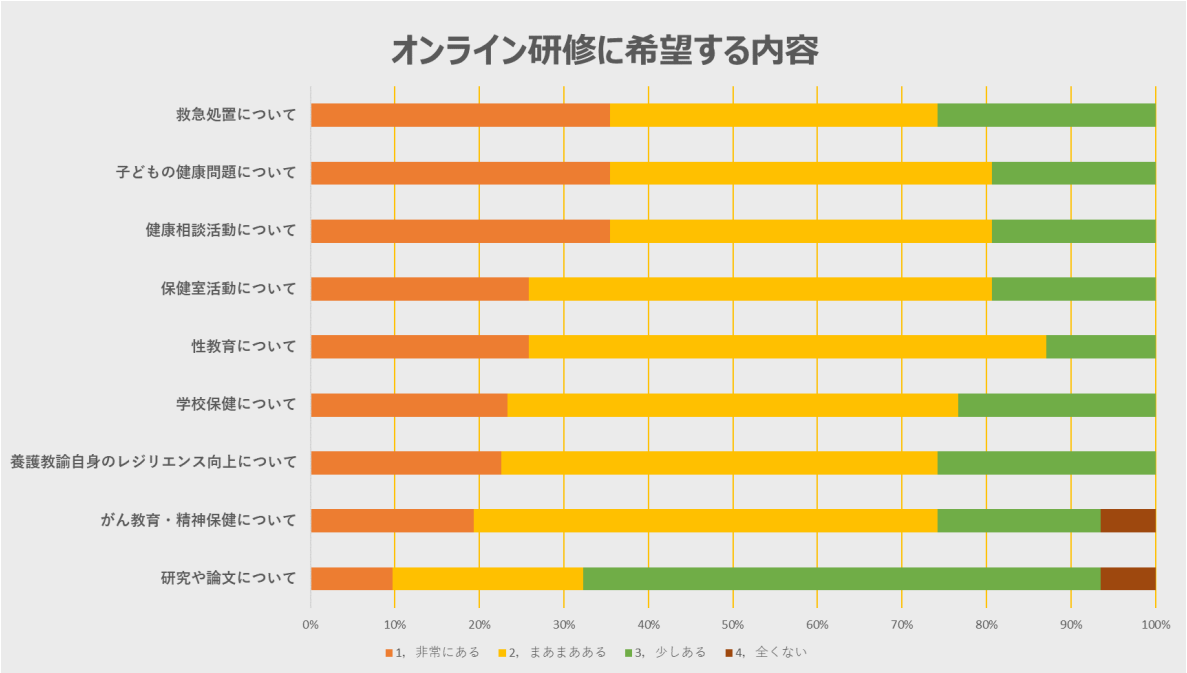
・20 代は「養護教諭同志の交流」以外はどの項目にも積極的であった。
・30 代はインターネットを活用して情報や資料を集めることをしたいと思っているが、養護教諭同時の交流には消極的であった。
・40 代はスキルの向上やオンライン会議、研修での学び、情報や資料の収集に積極的であるが、他行との情報交換、養護教諭同志の交流には消極的で あった。
・50 代はスキルの向上、情報や資料の収集に積極的であり、情報交換や交流は「まあ

まあ」「全く思わない」と答えていた。
・60 代は母数が少ないが、スキルの向上やオンライン会議、研修での学びを望んでいることがわかった。

4．オンライン研修に関して

1）研修を希望する内容

オンライン研修の希望を聞いたことろ「救急処置」「子どもの健康問題」「健康相談活動」という日常業務に関する内容に希望が多かったが、「研究や論文」には興味は低いことがわかった。



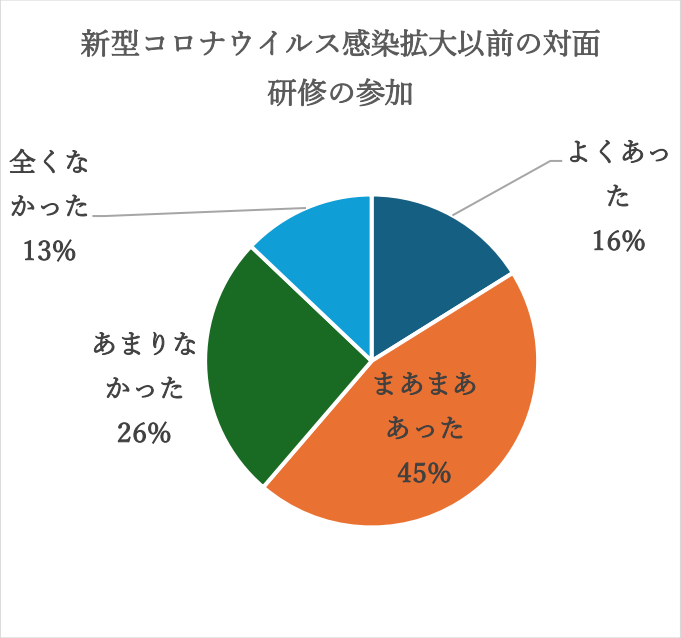
2）オンライン研修への年代別希望内容

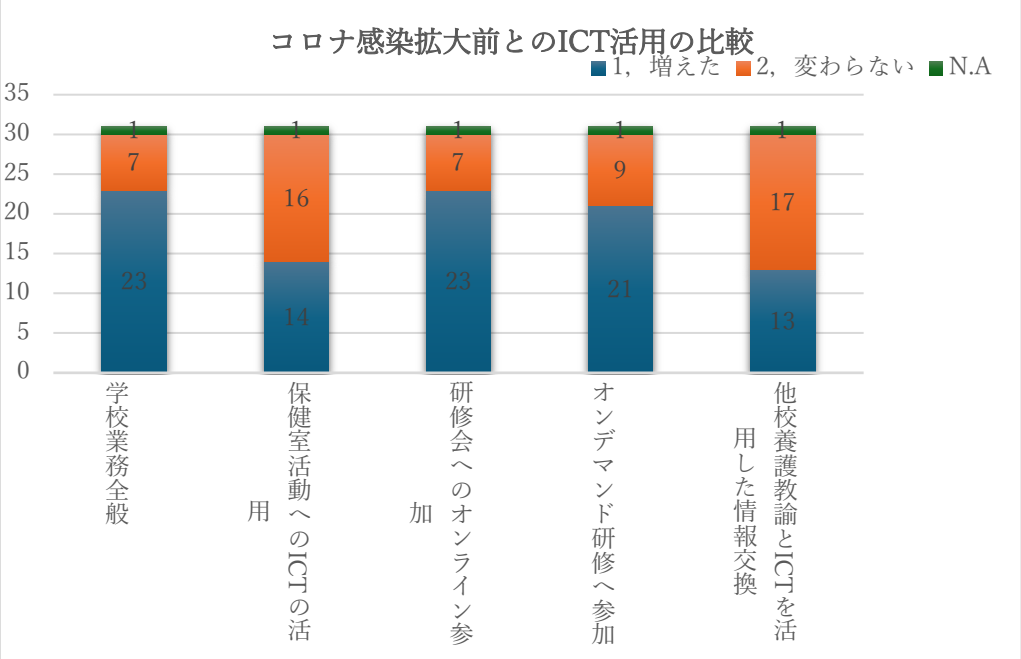
・ 20 代は「研究・論文」以外は「とても」「まあまあ」参加したいと全員が答えているが、年代が上がると「あまり」「まったく」参加したいと思わないがふえている。
・30 代は「子どもの健康問題」「救急処置」「健康相談活動」の実践に興味のある割合が高いが「研究・論文」には興味が低かった。
・40 代は全般に「まあまあある」と答えているが、「研究・論文」にはほとんどが「少しある」と答えている。
・50 代は「救急処置」「がん教育」「性教育」を「とても」と答えている割合が高かった。
・項目別では、20 代はレジリエンス向上に興味を持つ割合が高かったが、40 代、50

代の興味は低かった。

5．新型コロナ感染拡大による ICT 活用の変化について

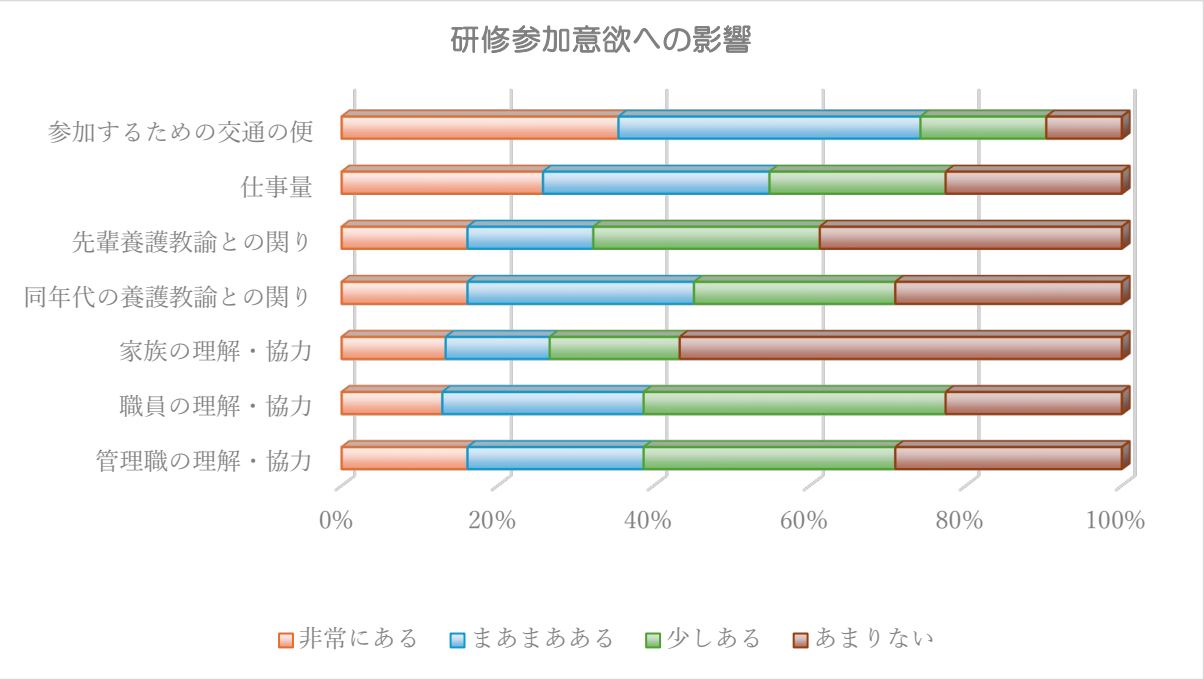
この項目は先行研究の全国調査には無かった項目であり、感染拡大による影響の中でも変化が大きいと考え、養護教諭の職務ではどのような状況であったのかを質問した。したがって比較するものはないが変化として「学校業務全体」「研修会へのオンラインでの参加」「オンデマンド研修への参加」では増えているが「保健室業務への活用」「他校の養護教諭との交流」は「変わらない」と答えている割合が多かった。





６，研究参加意欲に影響する環境について

ほとんどが一人職である養護教諭が、学校を留守にして研修参加することは難しいことが考えられるため、参加に影響する環境について聞いたところ「交通の便」「仕事量」の影響が「非常にある」とこたえたものが他の項目より多く３０％以上であった。調査地は札幌に隣接し中心部での研修に日帰りできる距離にあっても、時間や距離の影響が大きいことがわかった。



７．オンライン等の ICT を活用することに対する思い（自由記述）

質問項目全体を通して、自由記載で意見を求めたところ、以下の記載があった。

４０代

・オンライン研修に不慣れなため、対面開催の研修に参加したいと思ってしまいます。

・オンライン研修が増え、距離的に無理だった研修にも参加できる機会が増えました。しかし、対面での研修がまた戻ってきて、オンラインでの研修よりも対面での臨場感、グループワーク等での参加者との話しやすさ、実技が可能なこと…など良さを感じてしまっています。ハイブリッドでの研修でも不具合が少なくなるような手軽さがあると運営しても良いかなと思えると思います。自分が企画運営するというような自分ごとにはまだまだなれないないのが現状です。そういう部分の研修が今後は必要だと思います。

５０代

・ いろいろな研修に参加したい気持ちはありますが、校内事情などで参加できないことが多いです。対面研修の良さは、研修内容が頭に残りやすいことです。オンライン研修については、校内で受けることができるという利点がある反面、生徒対応が必要な場合があると、決められた時間の中では受けることができません。自分の都合のつく時間を選んで受けられるオンライン研修だと参加しやすいと考えています。

Ⅳ　考察とまとめ

・日本養護教諭関係団体連絡会の調査によると養護教諭が学校で WiFi が使える環境は共有であっても 43.8%である。そうした環境は養護教諭の ICT スキルの向上に関係すると考えられる。
・北海道の養護教諭は、年代の 2 極化が進み特に若手養護教諭の割合が多くなっているが、調査地域は政令指定都市に隣接した市であり 84%の回答率のうち回答者の 42%が 50 代以上であった。へき地小規模校の若い教員の割合が高い一方で、北海道の中心部には 50 代以上が集まっている現状があった。
・中心部の年齢構成を生かし、こうした地域ではミドルリーダの育成の為のスキルや知識を高めるサポートが必要と考える。
・20 代、30 代の若手養護教諭に対しては、実践活動に関する研修が必要とされているため、さらにニーズを調査し計画する必要があると考える。
・レジリエンス向上や養護教諭同志の交流には高いニーズは見られなかったが、年代の二極化を鑑み年代を区別したセミナーや交流を実施することで仲間」と「共有体験」することによって効果が高まることが期待される。

Ⅴ　今後の課題

今回は中心部の現状を調査したが、今後北海道の 7 割を占めるへき地・小規模校の調査と、年代による課題を明らかにし、養護教諭の離職を予防する支援につなげたいと考えている。

Ⅵ　文献

１．日本養護教諭関係団体連絡会：養護教諭のコンピュータ環境調査,2020

２．日本養護教諭関係団体連絡会：養護教諭や保健室におけるパソコン環境や ICT に

関する調査報告,2022

3．嶋津貴子,後藤知己：養護教諭の自主的な研修への参加の現状と関連する環境要因に関する調査研究,2021

4．日本学校保健会：学校保健の課題とその対応‐養護教諭の職務等に関する調査結果から‐,2022